

## 斑点米カメムシ発生予察技術の高度化と斑点米被害抑制技術の開発

### 1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター  
榊原 充隆

### 2 研究期間

2006～2008 年度 ( 3 年間)

### 3 研究目的

水稻に斑点米被害をもたらす斑点米カメムシ類の発生を予察する技術を高度化し、斑点米の被害をできるかぎり抑制する技術を開発する。あわせて、斑点米被害が予想される状況においても水田への農薬投入をできるかぎり軽減する技術も開発する。

### 4 研究内容及び実施体制

- ① 斑点米カメムシの変動要因の生態的・生理的要因の解明 (岩手県農業研究センター、(独) 東北農研センター、福島県農業試験場)  
斑点米カメムシの発生密度に影響する要因を生態学的、生理学的、分子生物学的に解明する。
- ② 斑点米被害に影響を及ぼす水田内の要因の解明 (山形県農業総合研究センター、(独) 東北農研センター)  
水田に侵入した斑点米カメムシが斑点米をつくる要因を解明する。
- ③ 斑点米カメムシ類防除要否判定法の確立 (青森県農林総合研究センター、東北大学、(独) 中央農研センター)  
斑点米カメムシの発生量を高精度に予測し、防除の要否を判定する手法を開発する。
- ④ 環境にやさしい水田病害虫管理技術の開発 (宮城県古川農業試験場、秋田県農林水産技術センター)  
薬剤防除が水田内の天敵等の生物種に与える影響を総合評価し、化学合成農薬を低減できる防除技術を開発する。

### 5 目標とする成果

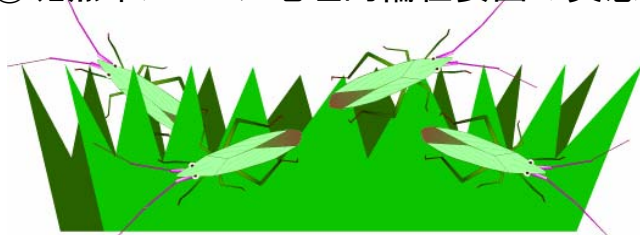
斑点米カメムシ類の発生予察精度を高め、水田への農薬散布を軽減する。また、個体数抑圧技術の開発に資する斑点米カメムシの生態的データを蓄積する。

# 斑点米カメムシ発生予察技術の高度化と斑点米被害抑制技術の開発

## 発生源では・・・

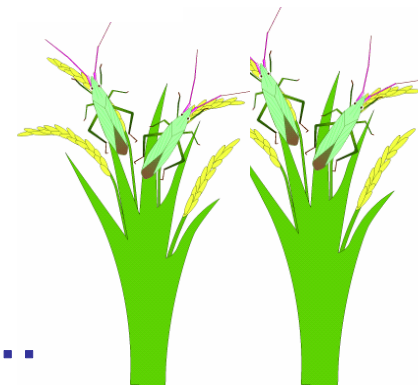
### I 斑点米カメムシ構成種の変動要因の生態的・生理的要因の解明

- ①斑点米カメムシ発生密度に影響する要因解明
- ②斑点米カメムシ個体群の地理的変異の実態解明
- ③斑点米カメムシ地理的偏在要因の実態解明



冬季の気象、越冬量、  
夏季の気象、イネ科植物の  
開花量・・・

本田への侵入



雑草、割れ籾、  
出穂のタイミング・・・

## 無用な農薬散布を避けるために・・・

### Ⅲ 斑点米カメムシ類防除要否判定法の確立

- ①斑点米カメムシのサンプリング法の開発
- ②イネ科植物由来の斑点米カメムシ類誘引物質の探索
- ③斑点米カメムシ類防除要否判断法の開発(中央農研)

## 本田内では・・・

### Ⅱ 斑点米被害に影響を及ぼす水田内の要因の解明

- ①水田内の斑点米発生機構の解明
- ②割れ籾被害率の予測

## 生産者・消費者がよろこぶ・・・

### Ⅳ 水田外の環境にやさしい水田病害虫管理技術の開発

- ①カメムシ防除が水田内の天敵等の生物種に与える影響評価
- ②化学合成農薬に頼らない防除技術の開発